

# ロボット菜園に生えている 雑草たち

ロボット菜園では、AIによる雑草の判別にチャレンジしています。  
今回、AIを利用した植物判定図鑑のスマホアプリ（PictureThis）によりロボット菜園に生えている雑草の種別判定を試みてみました。  
PictureThisの判定結果を、  
主婦の生活社刊「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」  
文一総合出版「身近な雑草の芽生えハンドブック」  
で検証しました。

# スギナ（杉菜）



トクサ科 (Equisetum arvense)

シダ植物トクサの仲間。地下茎を縦横無尽に張り巡らして拡がり、ドクダミと並んで駆除が大変な雑草。農家からは地獄草と呼ばれる嫌われ者ですが、昔から薬草としても活用されています。煎じてお茶として飲むことができます。スギナ茶には、サポニン、ケイ素、カルシウム、マグネシウムなどの成分が含まれ、むくみの解消、活性酸素の発生を抑える、美肌と老化防止などの効果があるとされています。山菜としてポピュラーなツクシは、スギナの胞子茎です。

---

判定結果 ○

Picture This → スギナ

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → スギナ

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → 掲載なし

誰がみてもスギナに間違いありません。

# ヤブガラシ



ブドウ科 (Cyratia japonica)

多年生の蔓性植物。道端、林、市街地など、どこでも見かける雑草。成長が早く、他の植物を覆い尽くすほど繁茂し枯らしてしまうことが、名前の由来とされています。地下茎を持ち、数センチでも残ると、そこから芽が出るため、駆除が難しい雑草です。夏には、淡緑色の目立たない小さな花をつけますが、甘い蜜が豊富に出るため、アリや蜂、昆虫などが多く集まってきます。

---

判定結果 △

Picture This → ヤブガラシ

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → ヤブガラシ

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → ヤブガラシ

おそらくヤブガラシだと思われます。この畑には赤紫色の幼茎が次々に生えてきます。

# ヒメジョオン



キク科 (Erigeron annuus)

北アメリカ原産の帰化植物。江戸時代後期に観賞用として導入されたものが定着しました。荒地でもよく育つため、「植物の開拓者」とも呼ばれています。写真では咲いていませんが、5月から10月まで白い細い花卉の菊に似た花を咲かせます。ハルジオンとよく似ていますが、ハルジオンはつぼみがうなだれています。ヒメジョオンはつぼみが上を向いています。

---

## 判定結果

Picture This → ヒメジョオン △-

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → ヒメジョオン

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → ヒメジョオン

ハルジオンの可能性もあります。

# カラスビシャク



サトイモ科 (Pinellia ternata)

日当たりの良い河原や畑などに生える多年草。仏炎苞と呼ばれるサトイモ科特有の細長い茎の上に、ミズバショウに似た独特の花をつけます。鼻の下にできる粒状のむかご、種、地下茎と繁殖の手段が多く、よく繁殖するため畑の難敵の一つです。一方で、地下茎はハンゲ（半夏）という漢方薬として利用されており、吐き気を抑える効果があります。農家の方が除草の時に集めた球茎を売ってお小遣いにしたので「ヘソクリ」の別名を持ちます。

判定結果 △-

Picture This → カラスビシャク

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → カラスビシャク

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → 掲載なし

花が咲いておらず、判定結果には疑問が残ります。



# ホトケノザ



シソ科 (Lamium amplexicaule)

ヨーロッパ、アジア、北アフリカ原産の帰化植物。畑や道端、石垣の隙間などでよく見かける雑草。対向した2枚の葉が茎を取り囲み、その中に咲く花の姿が、蓮華座に似ていることから、この名がついたとされている。春の七草に数えられているホトケノザは、これとは異なるキク科のコオニタビラコです。

---

判定結果 ○

Picture This → ホトケノザ

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → ホトケノザ

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → ホトケノザ

花が咲いておりホトケノザで間違い無いでしょう。

# メマツヨイグサ

アカバナ科 (Oenothera biennis)



北アメリカ原産の帰化植物。明治時代に観賞用として導入され、全国に野生化しました。河原や道端、空き地などでよくみられます。草丈は50～150cmとかなり大きくなります。盛夏から初秋にかけて黄色い花が咲きます。夕暮れに花が咲くので待宵草の名を持ちます。

---

判定結果 △- (花が咲いていないので判定が難しい)

Picture This → メマツヨイグサ

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → メマツヨイグサ

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → メマツヨイグサ

# アメリカフウロ

フウロソウ科 (Geranium carolinianum)



北アメリカ原産の帰化植物。昭和期に帰化した比較的新しい植物ですが、今では広く日本に定着しています。ゲンノショウコと似ていますが、ゲンノショウコが花が咲くのは7~10月ですが、アメリカフウロは4~6月と花の時期が早いので見分けがつかず。ピンク色の可憐な花をつけますが、他の植物の育成を妨害する畑の害草です。アメリカ先住民は根を薬用として用いました。

---

判定結果 ○

Picture This → アメリカフウロ

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → アメリカフウロ

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → アメリカフウロ

葉の形、花の様子からアメリカフウロで間違い無いでしょう。



# オオイヌノフグリ

オオバコ科 (Veronica persica)



ヨーロッパ原産の帰化植物。明治時代に日本に侵入しました。繁殖力が強く、在来種のイヌノフグリはほとんどみられなくなっていました。道端や畦道で多く見かけます。早春に小さな青い花をつけます。残念な名前を付けられています。小さな青い花から、「星の瞳」という綺麗な別名も持っています。

判定結果 ○

Picture This → オオイヌノフグリ

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → オオイヌノフグリ

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → オオイヌノフグリ

オオイヌノフグリの仲間はイヌノフグリ、タチイヌノフグリがありますがオオイヌノフグリで間違い無いでしょう。

# オランダミミナグサ

ナデシコ科 (Cerastium glomeratum)



ヨーロッパ原産の帰化植物。繁殖力が強く、在来種のミミナグサはほとんどみられなくなっていました。道端や畦道でよく見られます。早春に小さな白い花をつけます。全体に柔毛が生えています。他の植物の生育を阻害する畑の害草です。

---

判定結果 ○

Picture This → オランダミミナグサ

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → オランダミミナグサ

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → オランダミミナグサ

ミミナグサとの区別は困難ですが、ミミナグサは希少種になってしまっており、オランダミミナグサで間違い無いでしょう。

# カタバミ

## カタバミ科 (Oxalis corniculata)



庭や空き地から舗装の割れ目にまでどこにでも生える多年草。ハート形を3つ合わせたような葉が特徴。春先に花弁が5枚の黄色い花をつける。葉はシュウ酸を含んでおり、有毒なので注意が必要です。外来種のオッタチカタバミとの区別は難しいが、その名の通りオッタチカタバミが直立性なのに対して、カタバミは匍匐性で細い茎が横に地面を這うように広がります。

---

### 判定結果 △-

Picture This → オッタチカタバミ

「散歩しながら子供に教えてあげられる草花図鑑」 → カタバミ

「身近な雑草の芽生えハンドブック」 → カタバミ

カタバミとオッタチカタバミの区別は難しいですが、生え方からカタバミと判定しました。